



労働組合は生存権の大黒柱

そごう西武

労働組合のストライキを考える

8月31日の各新聞の1面は大きくそごう・西武池袋本店のストライキを報じました。百貨店のストライキは61年ぶりということ、組合のデモ行進もテレビのニュースで流れました。

街の声などは休業で迷惑の意見もありましたが、報道の姿勢も含め好意的でした。ストライキの目的は雇用確保でした。そごう・西武はアメリカの投資会社に売却されることになっていて、雇用不安が生じていますがストライキの結果、投資会社から雇用の維持を確保する回答を得られることになりました。

この労働組合の闘いを皆さんはどう思われますか。国民の60%以上が労働組合について「聞いたことがない」「具体的に知らない」と答え、現状の労働組合の組織率は約16%ともいわれています。

ストライキの権利は憲法28条で保障されています。なぜ61年間もストライキが無かったかを考えると、物流以外の産業では70年、80年の間は春闘で賃上げ要求をしてストライキは行われていました。しかしそれ以降、件数は減少してきました。

スト減少の原因は産業構造の変化、そしてなんと言っても大きな転換は日経連のちの経団連が打ち出した「新時代の日本の経営」の人事、労務関係の方針でした。終身雇用を止め、臨時・パートなどの非正規雇用に置き換えて行くことでした。

その結果、職場のなかに同じ仕事につくの異なる雇用形態が生じ、要求等の統一や団結の困難そして組合活動の停滞へと繋がっていききました。ストライキを打つ件数も減少、そして



東京新聞

国民全体の労働組合への理解も縮少していききました。

その後、働く人々の不安や不満はかつてない程に増大していききます。

ここで改めて考えてみましょう。労働条件の向上には労働組合の果たす役割は大きく、団結・交渉、そしてスト権、働く人々の生存に関わる大切なこの三権が保障されています。

そごう・西武労働組合の皆さんが労働基本権のもと闘ったこのストライキから学びたいと思います。

今月の予定です

＜コロナの感染状況で変・中止することがあります。＞

10月1日(日) 13:30～16:40
DVD 視聴と意見交換 DVD「ジャニーズ性加害問題」
南部梅郷公民館 南地域九条の会

10月9日(月・祝) 16:00～17:00
9の日 行動 ボードでアピール&九条通信配布
川間駅 北口 野田・九条の会

10月14日(土) 13:30～16:00
野田・九条の会10月例会 DVD「はだしのゲンと父」を
櫛のホール 調理実習室 視聴&意見交換 野田・九条の会

10月19日(木) 13:30～15:30
ちょっと硬派な「おしゃべりカフェ」
北コミ 和室 第2 野田・九条の会

10月28日(土) 10:30～12:00
【拡大版】ちょっと硬派な「おしゃべりカフェ」
市役所 1階 ふれあいギャラリー前 平和のための戦争実行委員会

10月26日(木)～31日(火)
【平和のつどい・展示】戦争遺品や原爆写真、いわさきちひろなどの展示<9:00～17:00 最終日は15:00まで>
市役所 1階 平和のための戦争実行委員会

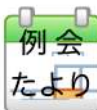
11月5日(日) 13:30～16:40
DVD 視聴と意見交換 「ミッドウエー海戦」
南部梅郷公民館 南地域九条の会

日本国憲法 前文の

「日本国民は」と「日本国は」の違いは



日本国憲法は三本の柱、国民主権・民主主義・平和主義を掲げて'47年5月3日に施行されました。戦前国民は天皇の臣民とされていましたが新憲法で主権者は国民となりました。憲法の前文は冒頭「日本国民は」から始まり国民主権を謳っています。ところが92年の自民改憲草案では「日本国は」で民が抜けています。読んでいくと天皇を元首にとありました。国民を臣民に戻すかのようです。 * 臣民：天皇主権の下の日本国民



9月の例会では

DVD「幣原喜重郎 国際協調外交の誤算」を見て意見交換をしました。

話し合った主な内容

- ▶ 当時、軍と政府は一体で、マスコミは国民を煽り戦争へと向かわせた。
- ▶ 関東大震災からの復興は早かった。その力を平和へと向かわせれば良かったが戦争へと向かい大きな間違いであった。
- ▶ 政府が軍を動かすことは、統帥権の存在もあり政治主導が阻まれていた。
- ▶ 幣原喜重郎の戦前の外交官としての仕事ぶりが良く分かって良かった。

防衛予算要求 過去最大！ 軍事では平和はつukれない



航空自衛隊 HP

9月1日の新聞紙上で2024年度の政府の概算要求が発表されました。概算要求とは、翌年度の予算編成に向けて各省庁が財務省に提出する予算要求のことですが、これによって国の方向性がわかります。これからの予算編成の流れは既に骨太の方針を閣議決定（6月）、概算要求基準の閣議決定（7月）そして各省庁の概算要求を財務省に提出（8月末）を終えていますので財務省が査定、各省庁と折衝（9～12月）、政府案を閣議決定（12月下旬）、予算案を国会に提出、審議開始（翌年1月）となります。来年度の予算概算要求の規模は、約114.4兆円で過去最大規模です。加えて概算要求段階では金額を示さない「事項要求」（物価高騰対策など）があるため総額はさらに膨らみます。

さて、24年度の特徴はなんといっても軍事費が突出し増加していることです。これは「日米同盟の抑止力と対処力を強化する」と軍事的対決姿勢を鮮明にしたことにあります。前年度比0.9兆円増の総額7.7兆円強です。米軍再編関連経費はさらに上積みされます。これは12年連続で前年度を上回り、

10年連続で過去最大の更新が狙われています。

軍事で平和はつukれない

いま国民が実質賃金前年割れ状態にある中、さらに物価高騰に直面する市民生活を後回しにし、米国との武器購入公約を最優先にした大軍拡予算となっています。対中国への抑止力（軍事力を背景に相手に恐怖を与える）の強化は、果てしない軍拡競争を引き起こし国民生活はとめどなく疲弊していくことになるでしょう。



日本の軍拡とは異なり ASEAN（東南アジア諸国連合10か国）は意見の違いを決して紛争にさせない、話し合いで事を解決する外交に徹しています。

さらに東南アジアだけでなくインド太平洋地域にまで平和外交を広げようとしています。わが国の進むべき道は、大軍拡ではなく ASEAN 提唱に参加し、憲法九条を生かした平和外交に徹することではないでしょうか。



誰もが住みやすい環境を 宇野和江

今から37年前、我が家は野田の川間に越してきた。政府の低金利政策により企業の投資などが進み土地や株の値段が異常に値上がりしたバブル時代の時です。

江戸川の土手を車で川間駅方面に走り目にした光景は忘れられません。田舎ではあるが櫻の木が両側に植栽されてトンネルのように美しかったです。道の両側には区画整理された住宅地が並び、イチョウ並木通りに小さな森の雑木林があり真っ赤に紅葉したドウダンつつじが美しかったです。私は「ここに住みたい」と決めたのです。



しかし、いつまでも好景気は続かないもので政府や日銀は引き締め政策を実行したのです。土地や株の値段も下がりバブルの崩壊です。

このことと関係があるかは分らないが私のお気に入りの櫻の木が両手をもぎ取られたように無残に伐採され変貌してしまいました。写真を撮り役所に掛け合ったが、財政の問題でやむを得ないとの回答でした。地球温暖化は世界でも様々な影響が出ています。

小さな昆虫類や動物も私たち人間も同じ生き物ですから生態系を壊さない自然環境づくりをしてほしいです。

